

---

# 敵討つわ

柳 大知

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

敵討つわ

### 【Nコード】

N5121F

### 【作者名】

柳 大知

### 【あらすじ】

かたき敵討つわです。ほぼあらすじですが、短いので、どうぞ読んで下さい。

二〇××年、日本でも終身刑が採用された。  
それに次いで犯罪の厳罰化が進められ犯罪の件数は減少していった。

だが相変わらず無意味で不条理な殺人事件は起こっていた。

## （１）事件

内閣総理大臣、田中喜義の一人息子で大学生の田中慶太が何者かに拉致された。

すぐに反政府組織を名乗る集団から犯行声明が届き、国に対し無理な要求が突きつけられた。

事件は数日後解決し犯行グループの男三人が逮捕されたが、同時に総理の息子の死体も見つかった。

国政に影響は無かったが現役総理の家族の誘拐殺人事件が報じられると国民は大きなショックを受けた。

後日、犯行グループの主犯格の若い男には死刑、残る二人には終身刑が言い渡された。

## （２）死刑囚 A

独房でいつ来るとも分からぬその日を待ちながら生きていた男、死刑囚 A。

彼は田中慶太誘拐殺人事件の主犯格の男だ。

「総理の息子を殺したんだ、何されるのか…」

「噂だと人体実験されるらしいぞ」

「俺もこんなこと初めてで分からんが、まあ楽には死ねないだろう

な」

死刑囚Aは看守達のそんな会話を聞いた後、車でどこかへ移送された。

何処かへ着くと、独房を出るときされた目隠しと猿ぐつわをしたまま椅子に縛られた。

死刑執行場？人体実験？拷問？

分からない、だが一つだけ確かなのは、自分が何の抵抗も出来ぬ虫ケラだということだ…

### (3) 敵討つわ

「総理、準備が出来ました」

そう言われ、部屋に入っていくのは田中総理大臣と高校生くらいの少女、さらにその後ろに数人の男が続いた。

窓もない白い部屋、彼らはそこに入ると唯一の出入り口を閉め死刑囚Aを囲んだ。

椅子のすぐ側に総理大臣と少女が、それから少し後ろに数人の男。「いいよ」

少女が口を開く。

総理大臣は深く息を吐いてから、その手を死刑囚Aの首にかけた。その手が触れたことで状況を察した死刑囚Aが呻き声をあげる。

だが無駄だ…

ゆっくりとその首に力が込められていく。

死刑囚Aは頭を震わせながら何とか抵抗しようとする、しかしその動きは徐々に鈍くなる。

…

「ストップ」

少女がそう叫ぶと、総理大臣は死刑囚Aの首にかけていた手を瞬時に離す、少女は死刑囚Aの頭に両手を置き何かブツブツと囁く。

…  
「……終わった」

少女は急にそう言うと、男の頭に置いていた両手を浮かし、ゆっくりとその手を自分の体に近づけていた。

「成功したのか？」

総理が少女に訊く。

「多分…ねえ？」

少女がそう言い死刑囚Aの目隠しを取ると、垂れ下がっていたその頭がふつと上に向けられた。

「慶太…慶太なのか…」

総理はそう言いながら、死刑囚Aの猿ぐつわを外す。

「父さん…」

死刑囚Aの口からその言葉が出た。

「念の為訊くけど、慶太だね？」

それを聞くと椅子に縛られている男は、静かに頷いてから言った。

「うん…僕だ…成功だよ、アサミ」

(4) アサミと慶太 (数日前)

ああ…やつと消えた…、

だいたい私にそんなの出来る訳ないじゃない。

こっちはテスト勉強に集中したいのに！

(あの…)

ああ、もういや、また別なのが来た…

も…とつと消えて！

何言われたって助けてなんかやらないんだから…

(あの…僕、田中慶太って言います)

ん？どつかで聞いた名前。もしかして…あの事件の？総理の息子だっけ？

(はい…そうです、僕なら条件が整うんじゃないかな？)

総理か…なら…できるかも…って何、どうすればいい？

（えっと、僕の家の手紙を出して、僕らの事を知らせるんだ）  
手紙…面倒くさ、どうせ私が書くんでしょ…

（まあ、僕には書けないから）

えゝ、てか、親戚とか友達に靈感ある人いないの？

（一応当たったんですが、全滅…、それに、これは君しか出来ないし）

あつそ…じゃあしょうがない、書いてあげるから、何書くのか言  
ってよ。

（ええと、家族しか知らない秘密を書いて信用を得て、後は連絡を  
待ってますって…）

つまり、総理に私の携帯の番号を教えろと…

（だね）

これってさあ、あたしにメリットあんの？

（成功したら大金貰えるって、僕だっっていくらでも払うしさ）  
オッケーそれ聞いたら燃えてきたゝ

（5）父への手紙

「あなた、こんな手紙が…」

妻が、手紙を渡す。

その手紙の裏にはこう書いてあった（父さんへ    k e i t a 0 2  
1 7 . h e r o . k . t @ . . .    慶太    ）

いたずらとも思える死者からの手紙、だがそこに書かれていたの  
は息子の携帯のメールアドレス、父は手紙を開き読んだ。そして書  
かれていた事に驚愕した。

父さんへ

驚くとは思いますが、僕はまだこの世界にいます。

この手紙は僕の姿を見ることの出来る少女に書いて貰っています。信じられないと思いますが、彼女は僕を生き返らせる事が出来ます。

元の姿で生き返ることは出来ないし、方法が複雑なのでそれは後で知らせます。

とりあえず、手紙を読んだらここに連絡下さい090 - xxxxx  
- xxxxx

平日の日中は授業があるので出れませんよ（アサミ）

父さんの書斎の鍵が掛かってる引き出しの中にxxがある（慶太、信じてください）

## （6）再び白い部屋

総理とアサミ、二人と共にこの白い部屋に入ってきたのは、影で日本を操る有識者達。

「どうやら、本当に成功したようですね…」

「死の寸前で魂を入れ替える、まさに奇跡というべきか…」

「死刑や終身刑を宣告された者の体、永遠に塀の外へ出ることの無いその器を再利用し、突然体を失い、この世に未練を残して彷徨う者の魂をそこへ戻してやる…」

「顔は整形でどうにかなるでしょうし」

「さして、どう利用するのが一番良いのか…」

白い部屋に、アサミの無邪気な声が響く、  
「ねえ、幾らくれるの？」

( 終わり？ 続く？ )



（後書き）

霊魂みたいのが存在するなら、それを体に戻せるのか…って事考え  
て書き出したのですが、まあ非現実ですね、てかあらずじです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5121f/>

---

敵討つわ

2010年10月8日15時17分発行